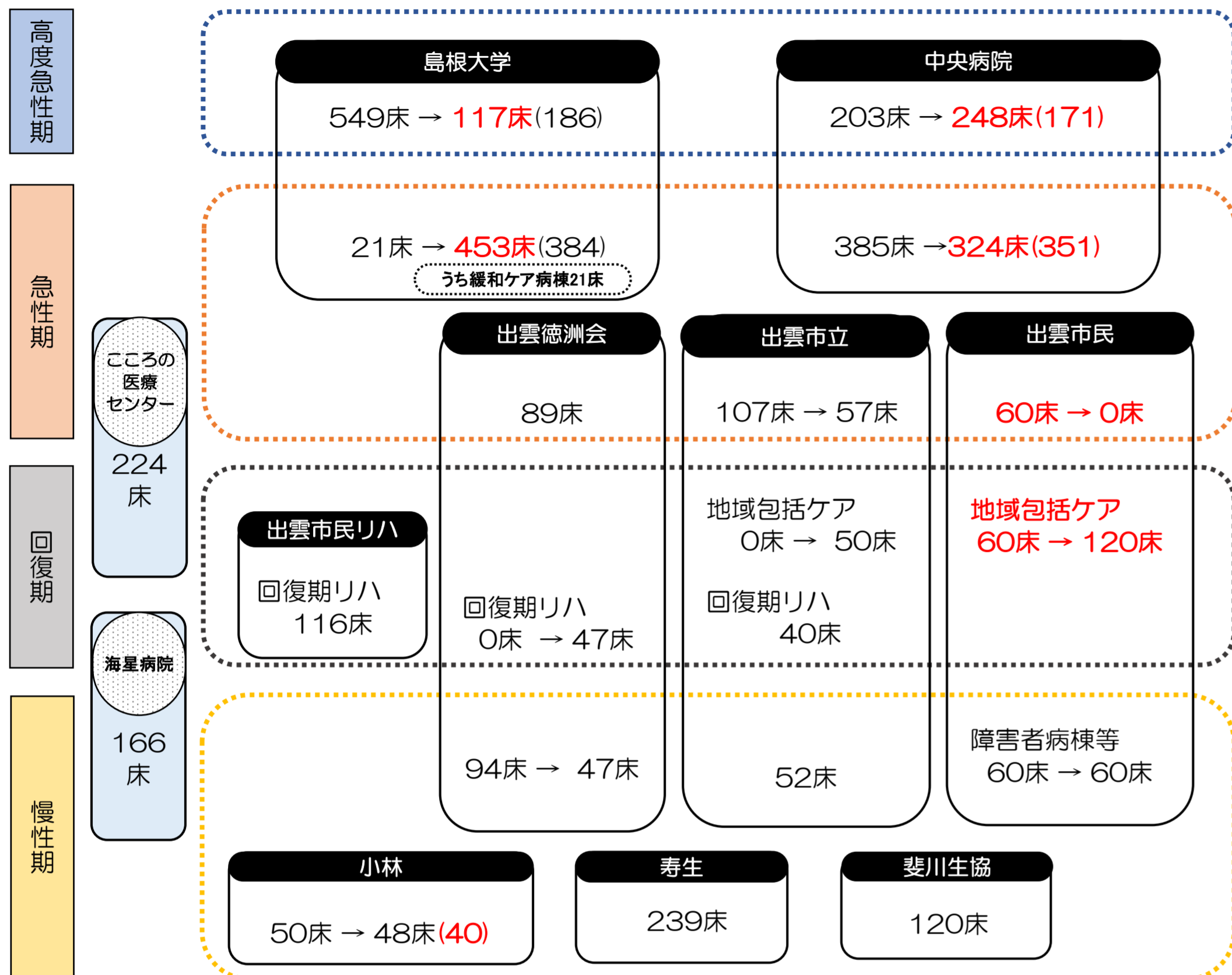
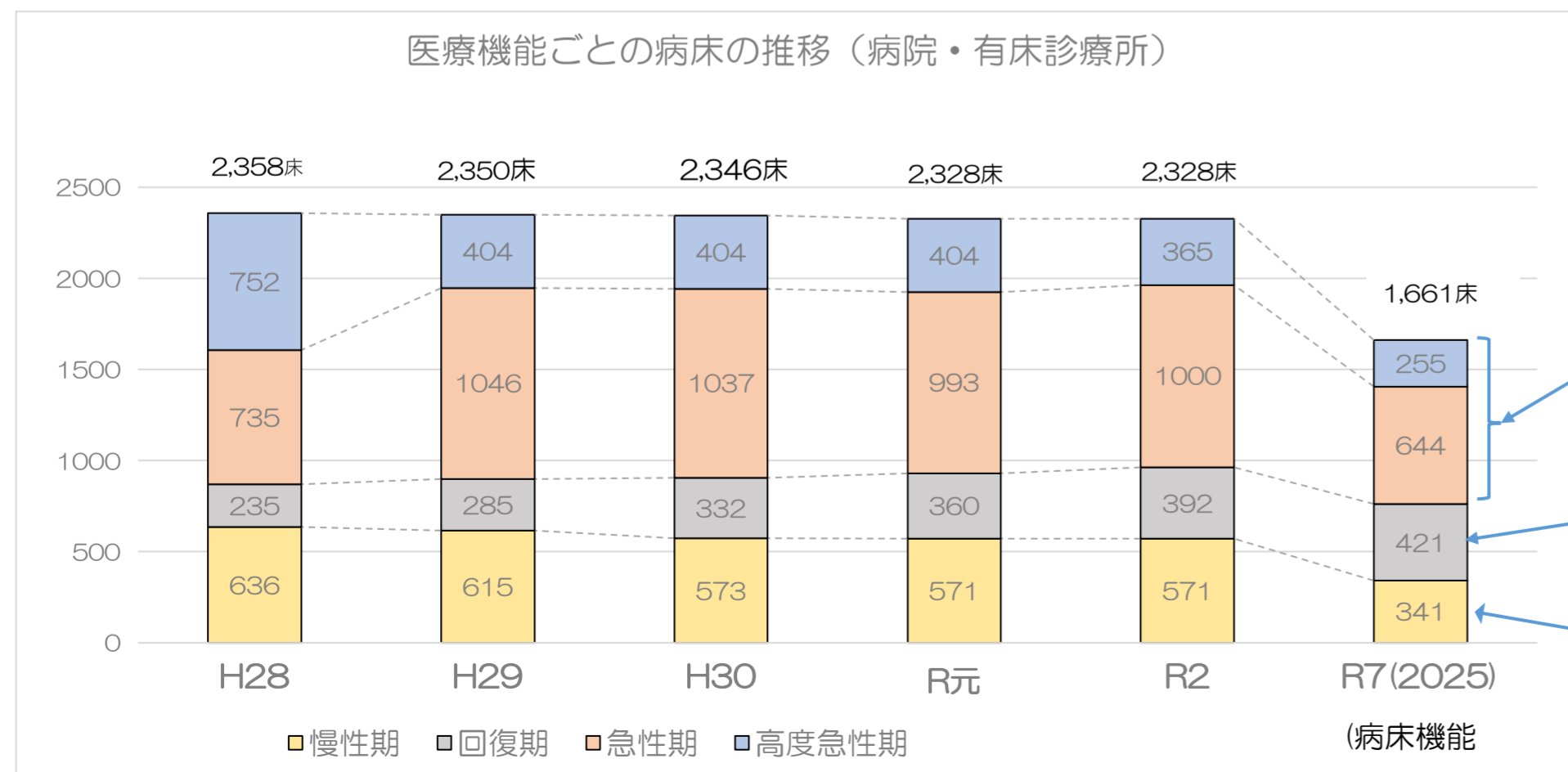


出雲圏域の医療体制と課題（平成28年度 → 令和2年度の動き、（ ）R7年度予定）



朱書き：R元年度第1回医療・介護連携専門部会以降の変更か所（病床機能報告）

2025年に向けて「高度急性期・急性期」「慢性期」の減少、「回復期」の増床を目指している。取り組みにより、急性期・慢性期から回復期への転換が進んでいる。今後に向けては、高度急性期及び慢性期の見直しが課題である。



- 【全体】
  - ・H28→R2年度 30床減少
  - ・さらにR7(2025)年度までに667床の減少が目標
- 1 【高度急性期・急性期】 減らす方向で検討
  - ・H28→R2年度 122床減少
  - ・R2→R7年度までに466床の減少が目標
- 2 【回復期】 増やす方向で検討
  - ・H28→R2年度 157床増加
  - ・R2→R7年度までに29床の増加が目標
- 3 【慢性期】 減らす方向で検討
  - ・H28→R2年度 65床減少
  - ・R2→R7年度までに230床の減少が目標

地域医療構想に沿った検討の結果

会議終了後、中央病院病床数修正に伴い関連数値等を修正

高度急性期・急性期

【結果】  
 ①病床機能報告では高度急性期が減少しているが、高度急性期・急性期全体の病床数は大きく変化していない。  
 ②出雲市立総合医療センター、出雲市民病院は、急性期病床から地域包括ケア病床への転換、徳洲会病院は、慢性期病床から回復期リハ病床への転換が行われた。  
 ③県中は「脳血管・心疾患」、医大は「がん」と疾患別に機能を分担  
 ④高度急性期病床は、自宅から短期間の入院を経て自宅へ退院。急性期病床は、自宅以外にも施設からの入院を受け入れ、少し長めの入院を経て、自宅や回復期病床に退院させる機能を担っている。

【今後の方向性】  
 ①高度急性期医療機関間の機能調整について、協議を進めていく。  
 ②高度急性期・急性期・地域包括ケア病床との連携について、協議を進めていく。

回復期

【結果】  
 ①回復期、地域包括ケア病棟（病床）は増加  
 ②地域包括ケア病棟（病床）は自院や他病院の急性期病床から患者を受け入れ長めの入院期間を経て自宅や施設に退院させている。  
 ③地域包括ケア病棟（病床）の2~4割は自宅や施設からの入院を受け入れており、サブアキュートの機能を果たしている。

【今後の方向性】  
 ①在宅医療の体制整備として、地域包括ケア病棟のサブアキュート機能の強化に向けて検討する。  
 ②回復期病床への転換による増床を目指す。

慢性期

【結果】  
 ・老健や特養は医療区分1の人の受け皿にはなっておらず、療養病床がその役割を担っている。

【今後の方向性】  
 ①医療区分1の人の受け皿の実態を把握し、今後の病床のあり方について検討する。  
 ②慢性期病床の減少を目指す。

(令和元年度第3回医療・介護連携専門部会での検討結果から)

病床機能	医大	県中	出雲市立総合医療センター	徳洲会	出雲市民リハ病院	出雲市民病院	寿生病院	斐川生協	小林病院	その他の有床診療所(H30年度確定値)	合計	地域医療構想による必要病床数(2025)	病床種別
高度急性期	117	248									365	255	一般
急性期	453	324	57	89						77	1,000	644	
回復期			90	47	116	120				19	392	421	
慢性期			52	47	60	239	120	48	5	571	341		
療養病床等						60					60		療養
療養病床(20対1)			52	47			120	48		267			
療養病床(25対1)						239				239			
合計	570	572	199	183	116	180	239	120	48	101	2,328	1,661	

病床機能	島根大学医学部附属病院	島根県立中央病院	出雲市立総合医療センター	出雲徳洲会病院	出雲市民リハビリテーション病院	出雲市民病院	寿生病院	斐川生協病院	小林病院	病床種別
高度急性期	●	●								一般
急性期	●	●	●	●						
回復期			●	●	●	●				療養
慢性期			●	●				●	●	

